

特集

スクラムを組んで！ 青少年健全育成

寄居町青少年健全育成町民会議（矢部伸昭会長）では、青少年健全育成を広域的、総合的に推進するために、町内関係団体および機関とともに活動を展開しています。日々の活動から感じたことなどを、それぞれの立場からお寄せいただきました。

問い合わせ／生涯学習課（☎581・2121内線532）へ。

子どもたちの健やかな成長のために



寄居町青少年健全育成町民会議会長
矢部 伸昭

近年、インターネット上の有害環境が大きな社会問題となつています。高校生のほとんどが携帯電話を所有し、インターネットを利用している

のが実態です。子どもたちが、保護者の目の届かないところでインターネットを不適切に利用して、トラブルや犯罪に巻き込まれる事件が多発しています。寄居町青少年健全育成町民会議では今年度の重点活動として、子どもたちをこうした犯罪から守るために、大人自らがインターネットや携帯電話などが情報化時代の新しい知識・技術を学ぶことに挑戦しました。主な取り組みとして、県警本部からサイバー犯罪の専門家を招いて講演会を開き



ました。また、インターネット企業の株式会社グリーを訪ねし、パトロールセンターなど最先端の現場を見学しました。民間企業でもネット犯罪の防

止策を講じていますが、防ぎきれません。最終的には「使う人のモラルが頼り」ということを強く感じました。携帯電話やインターネットは、豊富な情報源であり、とても便利なものです。しかし、使い方を一歩誤ると、大きな犯罪につながる場合があります。有害情報から子どもを守るために、家庭では普段から子どもとよく話し合い、携帯電話の利用についてルールを決めたり、フィルタリングサービスを活用したりするなどの対策を講じていただきたいと思います。ネットの危険から子どもたちを守るには、学校や関係機関などの取り組みと

ともに、保護者の皆さんの協力が必要です。IT化が進んでいく中で、生活に豊かにする手段や道具として、携帯電話やインターネットなどを賢く上手に使ってほしいものです。家庭や地域が、しっかりと子どもたちを支えているところでは、非行や問題行動が少なくないと言われています。まちづくりの基礎は、人づくりです。寄居町青少年健全育成町民会議では、これからの世代を担う子どもたちの健やかな成長を目指して、学校・家庭・地域が一体となり安心安全な環境づくりを努めていきたいと思います。

学校・家庭・地域で協力・連携



寄居中学校区児童生徒健全育成協議会会長
広島 暁之

日ごろより保護者・地域の皆さんには、児童・生徒の健全育成についてご協力をいただき、ありがとうございます。冬の寒い日も夏の猛暑の日で

も、登校時の交通安全指導や下校時の見守り活動をしていただいている皆さんのご協力には本当に感謝しています。この誌面を借りて改めてお礼申し上げます。児童・生徒の成長に必要なことの多くは学校や家庭での生活で学ぶことが多いと思いますが、普段の生活とは違う体験・つながりから学ぶことも多いと考えています。桜沢小学校・寄居中学校・寄居城北高校の3校では、桜沢駅で朝のあいさつ運動やホームの花植え活動などを

行っています。高校生のお兄さん・お姉さんと小さな子どもたちが一生懸命にあいさつを声を出し、協力し合っている様子や、花植えをし、駅のホームまで一緒に運ぶ姿は見ていてほほえましく、いつもの学校生活よりも広い世代で交流できるすばらしい機会だと思えます。また、地域でのお祭りや体育祭などの行事で自分の家族・友人以外の地域のいろいろな人と交流することは、豊かな人間性・社会性を育む、いいきっかけになると考えています。これからの世代を担う児童・生徒により影響を与えられるように、我々大人も積極的に交流し、

相互理解を進められればと考えています。寄居中学校区児童生徒健全育成協議会では児童・生徒がゆとりを持って、明るく、楽しい学校生活を過ごせるよう、学校（先生方）・家庭（保護者・地域（区長・民生委員・主任児童委員をはじめとする皆さん）が連携し、緊密な連絡・協調のもと、今後も地域全体で児童・生徒の生活をサポートし、健やかな成長を促す取り組みをしていきたいと考えています。保護者・地域の皆さんには今までも同様、児童・生徒の健全育成へのご協力をよろしくお願ひします。



学校・家庭・地域社会が連携、信頼の絆を大切に



折原小学校長
松村 行康

近年子どもの数が減少し、地域社会における人間関係の希薄化などが指摘されています。このような状況の中で、子どもたちの豊かな成長に欠

くことのできない、多くの人たちとの交流や社会・自然と直接触れ合うさまざまな体験の機会が少なくなっています。こんなとき、大地震が東北・関東地方を襲い多くの方が被災し、今日においても憂慮すべき事態が続いています。しかし、その困難の中、人間同士のつながり、支え合う心、地域の結びつきなど人と人との絆が人々を勇気づけています。今こそ学校は、家庭・地域社会の結びつきを大切に、児童生徒の自立心や豊かな人間性、社会性などの「生きる力」

を育てることが、必要だと思います。本校では、学校教育目標の一つに「思いやりの心を持ち、他人の気持ちを考えてられる子どもを育てる」を掲げ、学校生活全般で取り組んでいます。特に、他人の意見に左右されることなく、自分の考えをしっかりと持つことのできる子どもを育てることを目指しています。また、自分の考えをはっきり伝えることができ、相手の考えも尊重できる子どもを育てることを重要課題とし、各教科・領域で計画的に行っています。さらに、道徳の授業等により理解した規範意識や思いやりなどの道徳性を養うことが必要と考え、家庭・地域



の教育力を生かした体験活動をを通して学校教育の充実を図っています。具体的には、

地域の方を指導者とした「やまびこ交流会」を本校主催で実施しています。この行事は、地域に伝わる伝承遊びやものづくりなど10程度の講座を開き、地域の長寿会や文化交流会の方々が講師としてさまざまな体験活動を行っています。活動を通して、その素晴らしさに触れ、地域の方や友だちと協力しながら課題を解決しようとする態度を育成するとともに、地域の人と触れ合い、郷土のよさや暖かさを実感しています。地域の方にはさまざまな協力をいただいています。これらの応援があつての折原小学校の教育と感謝しています。